

食文化発展の源

中央卸売市場

北海道最大を誇る、市民の台所「中央卸売市場」を紹介します。

中央卸売市場の開設の話は大正十二年（一九二三年）「中央卸売市場法」が制定されたことに始まりま
す。市営卸売市場設置の必要性が市議会でもとりあ
げられ、計画書も作成されましたが、太平洋戦争勃
発により、中断を余儀なくされました。

終戦直後における市政最大の課題は、極度の不足
に陥った生活必需品の確保と円滑な配給の実現、さ
らに将来に向けた経済発展と市民生活の安定向上で
した。そこで、昭和二十二年に中央卸売市場設置案
が答申され、二十四年に国鉄桑園駅構内用地に生鮮
食料品を取り扱う「桑園仮荷捌場」を設置しました。
翌年十月には、小規模ながらも北海道条例に基づく
「桑園魚菜卸売市場」を開場しますが、二十八年に、札
幌駅が乗客専用駅となることで、貨物の発着場所と
して桑園駅が使用されることとなり、市場は閉鎖へ

と追い込まれてしまいました。

当時、札幌は人口がすでに四十万人に達し、さら
に北海道における政治、経済、交通及び文化の中心
地として発展していました。そこで、市民生活の安
定に資するためにも生鮮食料品の円滑な流通を図る
必要がありました。目標年次を四十年に決め、年間
取扱量を水産物五万ト、青果物十万トとする「中央
卸売市場設置の構想」が二十九年にまとまり、用地
買収及び市場施設の建設に着手しました。卸売人は
単数との国の行政指導趣旨にそって業界の入場態勢
の確立に努めました。統合は容易ではなく、難航
を極め、約一年間を費やすことになりました。

三十三年、中央卸売市場開設準備事務局が現在地
に移転し執務を開始しました。さらに、翌年十月に
は、鉄道引込線も開通して市場施設はすべて完成し
ました。そして、三十四年十二月、全国十七番目の
中央卸売市場として開設の認可を受け、青果物部の
業務を開始。水産物部は一年遅れて、三十五年四月
に開設され、現在の中央卸売市場の形態を整えまし
た。

その後、急激な人口増を背景に、取扱量が飛躍的



昭和38年の中央卸売市場
(札幌市写真ライブラリー所蔵)

に伸び、開設から四十年以上が経過すると、施設の老朽化が著しく、平成十一年に再整備基本計画が策定され、工事が行われています。十五年十二月に水産棟が完成し、十八年には青果棟ができ、事業全体の完成は十九年を予定しています。これからも、市場は生鮮食料品の流通拠点基地として時代の変化に対応し、市民の食生活の安定・向上に引き続き、貢献していくことでしょう。

(平成十七年一月号・第九十九回)